

新学術「交替劇」B02 班第 3 回班会議議事録（案）

日時：2010 年 11 月 25 日(水) 13:00～17:50

会場：東京大学柏図書館 セミナー室 2

参加者：米田穰（B02 代表者）阿部彩子（B02 分担者）、小口高（B02 分担者）、中橋渉（B01 班研究協力者）、仲田大人（A01 班研究協力者）、大学院生などオブザーバ 15 名

1. 研究紹介：

Dr. Masa Kageyama（海外共同研究者；Laboratoire des Sciences du Climat et de l'Environnement, LSCE/IPSL - CEA-CNRS-UVSQ）

"Modelling climate impacts on the environment of the last Neanderthals during the last glacial period: some results from the collaborations between climatologists from LSCE and archeologists from PACEA and University of Montreal"

これまでフランスで行われてきた考古学者と古気候研究者の共同研究について紹介がなされた。とくに、Banks et al. (2008 a, b)に関する方法論について、紹介いただいた。また、Europe Research Council によって今年度よりサポートが開始された Advanced Project "Tracing the evolution of symbolically mediated behaviors within variable environments in Europe and southern Africa."が紹介された。研究代表者は、ノルウェー・ベルゲン大学の C. Henshilwood 教授で南アフリカの発掘を行う。Kageyama さんも気候復元を行うためにメンバーとして参加しており、ボルドー大学の F. d'Erico および Banks との共同研究を計画しており、生態学的予測モデル GARP（後述）を応用して現代的行動の出現と気候変動の関係を検討すること。

http://cordis.europa.eu/fetch?CALLER=FP7_PROJ_EN&ACTION=D&DOC=1&CAT=PROJ&RCN=9

近藤康久（研究協力者；東京大学空間情報研究センター）

"Eco-cultural niche modeling (ECNM) by the Genetic Algorithm for Rule-Set Prediction (GARP): an intensive review."

Banks et al. (2008 a)では、Genetic Algorithm for Role-set Prediction を用いて、最終氷期最盛期頃の後期旧石器文化の分布状況（Solutlean と Epigravettian）と生態パラメータの関係性を抽出した。生態学的な予測では両者の分布はおおまかに重なりと考えられたが、実際の分布からは前者がより寒くしめった環境に適応していたことが示された。さらに、Banks et al. (2010b)では、旧人・新人の生態学的ニッチについて、気温および降水量を生態学的なパラメータとして、分布予測が行われ実際の遺跡分布状況と比較検討することによって、ハインリッヒイベント 4（H4）前後にみられた旧人の分布縮小は新人の影響が考えられるとしている。生態学的予測モデルの原理と方法について紹介した上で、新人の学習能力進化と気候変動の関係について、応用が可能であろうという見通しが示された。

Mr. Mark Diab（研究協力者；東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻 D3）

"Neanderthal hunting ecology in the northern Levant during OIS-3."

動物考古学的に新人と旧人の狩猟対象の比較研究から、両者の狩猟パターンについて比較検討が行われている。欧州および西アジアでは、狩猟対象動物の種組成、年齢構成、出現部位頻度について、明確な相違が認められていない。一方、歯セメント質の偏光顕微鏡による年輪観察から、狩猟季節を復元した研究からは新人では遺跡の季節的な利用が示されたのに対し、旧人の通年的な利用が指摘されている。本研究ではシリア共和国デデリエ洞窟から出土した動物遺存体を用いて、ガゼルの年齢構成を復元したところ、西アジアの旧人および解剖学的現代人の傾向と一致することが示された。また、歯エナメル質のストロンチウム同位体を成長方向に従って連続分析し、季節的な移動の復元を試みた予備的な結果について報告した。

討議事項：

12 月下旬に第 4 回班会議を開催する方向で日程調整する。次回発表予定の横山さんの日程を優先するので、12 月が困難な場合は 1 月に順延。

発表予定：

小口高：レバノンにおける GIS 研究

横山祐典：古環境プロキシをつかった旧人・新人交替劇に係る議論

大石（阿部研 PD）：気象モデルをつかった古植生復元の方法と実際の応用

Kageyama さんの講演会を地考古学関係者と共催できるか検討することとした。